

平城宮跡第 171次調査現地説明会資料

1986年 3月15日(土)

奈良国立文化財研究所平城宮跡発掘調査部
調査期間 1986年 1月 7日～ 面積 約4100㎡

平城宮跡第 171次調査は推定第一次朝堂院南東部の状況を明らかにするため、第 136次調査(1982・1～4)と第 146次調査(1982・12～83・5)とに挟まれた約 35,00㎡について実施した(以下西区)。あわせて、推定第一・二次朝堂院との中間地区約 600㎡についても調査をおこなった(以下東区)。

遺構の概要

〔西区の遺構〕

SD3765 平城宮造営当初に宮中央部に掘られた幹線排水路。短期間に埋められてられる。幅約 2m、深さ約 0.6m。木簡 4点と軒平瓦 1点を出土した。

SD3715 SD3765廃絶後の宮中央部の幹線排水路。幅約 3m、深さ約 0.8m。調査区南端から長さ約12m にわたって、東岸に護岸の杭が打たれていた。溝の堆積は上下3層にわけられるが、下層からも奈良時代後半の軒瓦が出土している。木簡23点のほか、瓦・土器が多量に出土した。

SD14 奈良時代後半に推定第一次朝堂院南半部の東を限る築地SA11150の西雨落溝。築地本体は後世の削平のため残っていなかった。

〔東区の遺構〕

掘立柱建物 4棟、掘立柱塀 3条のほか、溝・土壌を検出した。遺構は次の5期に区分できる。

I期 SA01 柱間約 2.4m(8尺)の東西塀。13間分を検出した。

II期 SA02 柱間約 2.7m(9尺)の東西塀。柱穴は一辺約 3m、深さ約 1.5mをはかる。15間分を検出し、さらに東へ延びる。SA02は第一次朝堂院南門から東へ伸びる南面の塀(SA9201)の東延長にあたり、第一・二次朝堂院の中間地区がこの塀によって閉塞されていたことが明らかとなった。

SD07 SA02の北約 3mにある東西溝。II期に掘られIV期まで続く。SD3715に注いでいた。

III期 SA02は築地塀につくりかえられ、SD07の北に2棟の掘立柱建物が建つ。

SB05 梁間3間(6尺等間)の南北棟。

SB06 桁行5間(9尺等間)の東西棟。柱穴には径約30cmの柱根が残り、一

部は礎板を敷いていた。

IV期 SB04 梁間 2間の南北棟。

V期 SB03 梁間 2間、桁行 3間の南北棟。SD07と築地塀は廃絶していたと考えられる。

なお、SK09は 3×1.5mの楕円形の土壇である。木簡の削屑 203点と瓦・土器を出土した。木簡からみてI期あるいはII期の初めに属す。

各期の年代はI・II期が奈良時代前半、III・IV期が奈良時代後半、V期が平安時代初頭。西区のSD3765はほぼI期、SD3715はII～V期に対応する。

〔古墳時代の遺構〕

西区では古墳時代の竪穴住居 7棟、掘立柱建物10余棟、溝、土壌を検出した。竪穴住居はいずれも方形プランで、一辺 3～4m。

〔出土遺物〕

木簡 229点、瓦、土器が出土した。木簡の大半は東区SK09から出土した削屑が占める。主な釈文を掲げる。

〔中臣カ〕 日百伍拾壹
*□□酒入宿祢□ (SD3765)
*散位寮□□ (SD3715)

〔国乙訓カ〕
*□□□□郡石作郷□ (")
*上毛野朝臣廣人 (SK09)

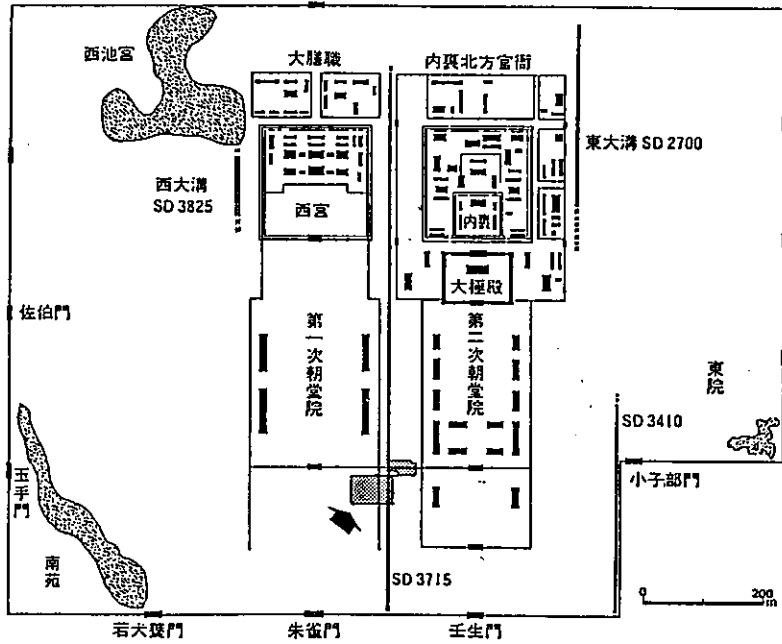
このうち「上毛野朝臣廣人」は『続日本紀』に 7回登場する。和銅元(708)に従五位下に昇進後、養老元(717)年に右少弁から大倭守となり、同4(720)年に按察使として陸奥に赴き、彼地で蝦夷の反乱のため殺害された、とある。

軒瓦は奈良時代始め頃から、中頃のものが多い。またSD3715からは「路」、東区SB04の柱穴からは「五日」、「七日」と記された墨書土器が出土している。

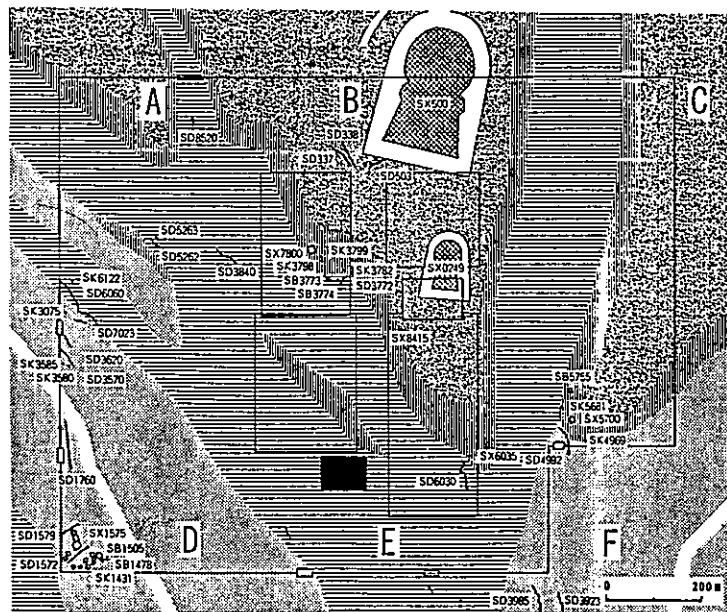
古墳時代の遺物は4～5世紀の土師器が出土しているが量は多くない。須恵器は6世紀中頃のもの少量ある。

まとめ

- 1) 第一次朝堂院の朝集殿についてはその存在を推測させる遺構はなかった。
- 2) 第一次朝堂院南門からのびる塀によって、第一・二次朝堂院の中間を閉塞していることが明らかになった。平城宮中枢部の区画に関して新たな知見が得られたとともに、中間地区に何らかの官衙群が存在したと推定できた。
- 3) 古墳時代の遺構がこの地域に比較的集中していることがわかった。

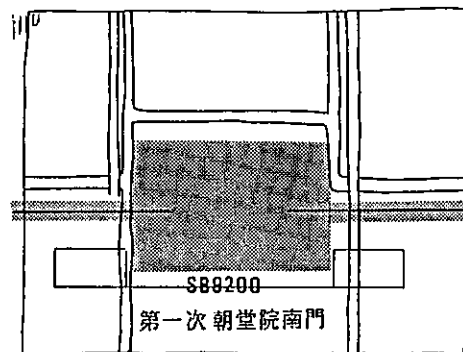


調査位置図

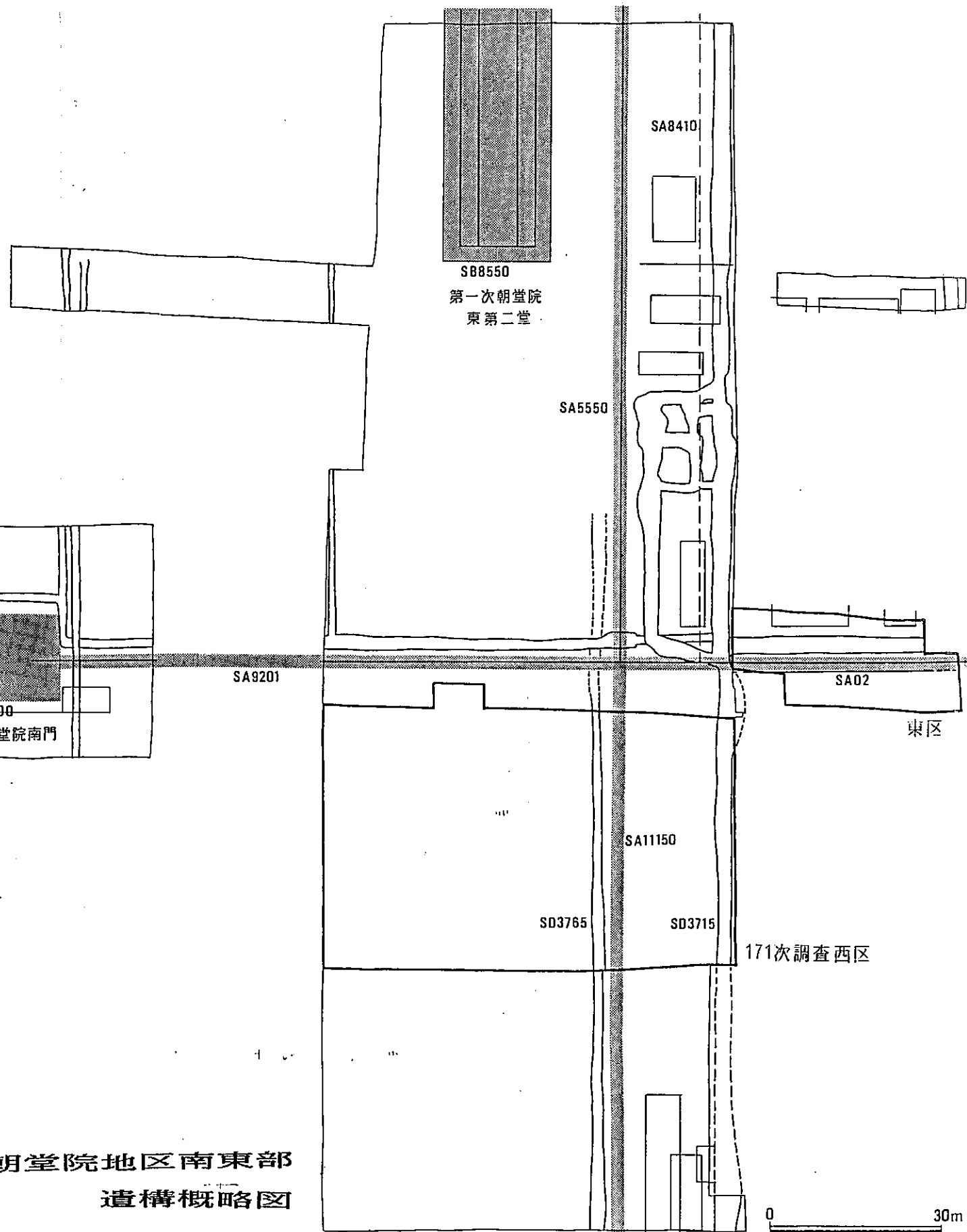


砂質粘り赤土 黒土 シルト 粘り土 砂

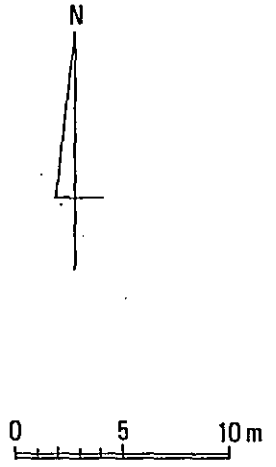
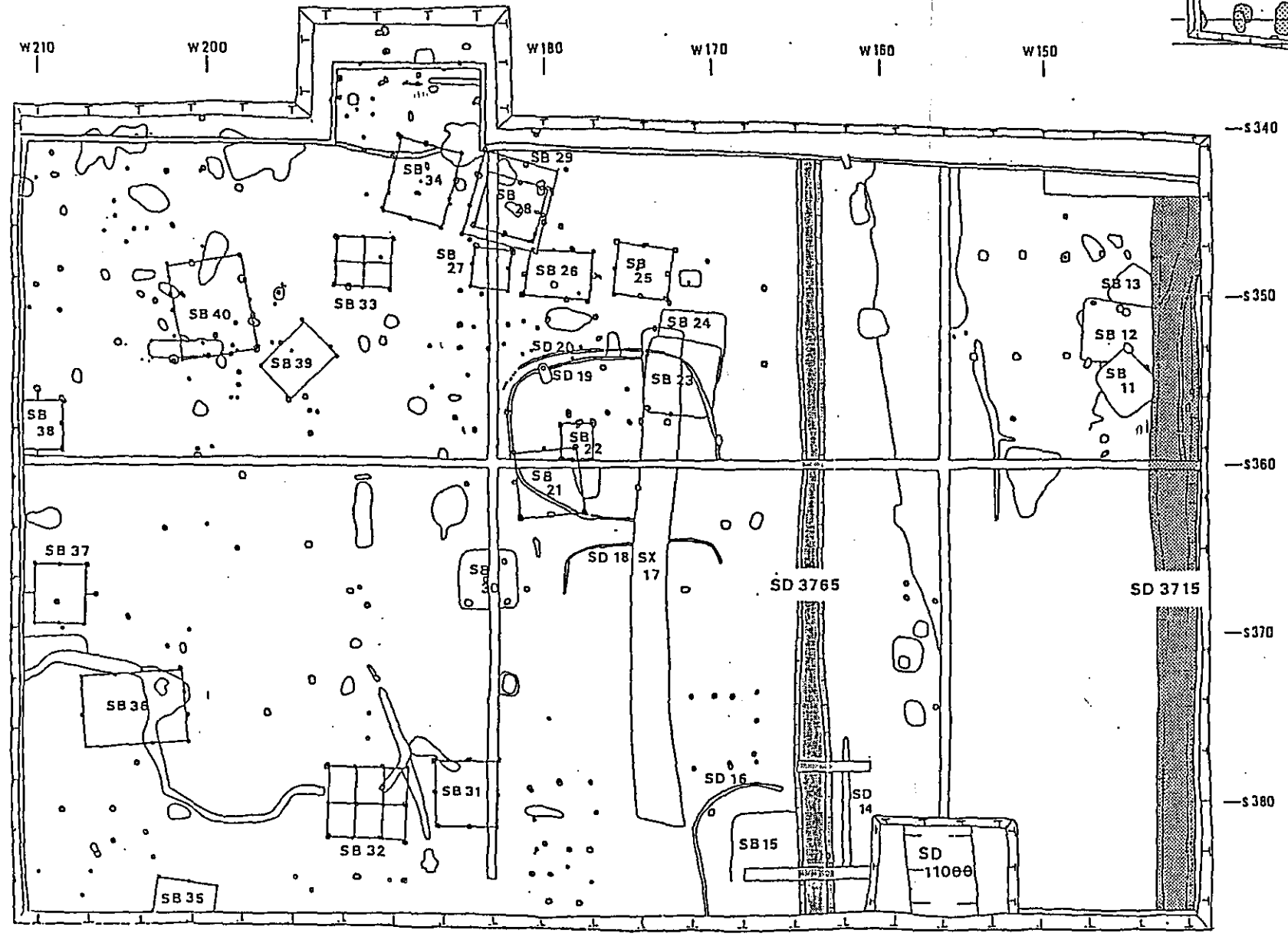
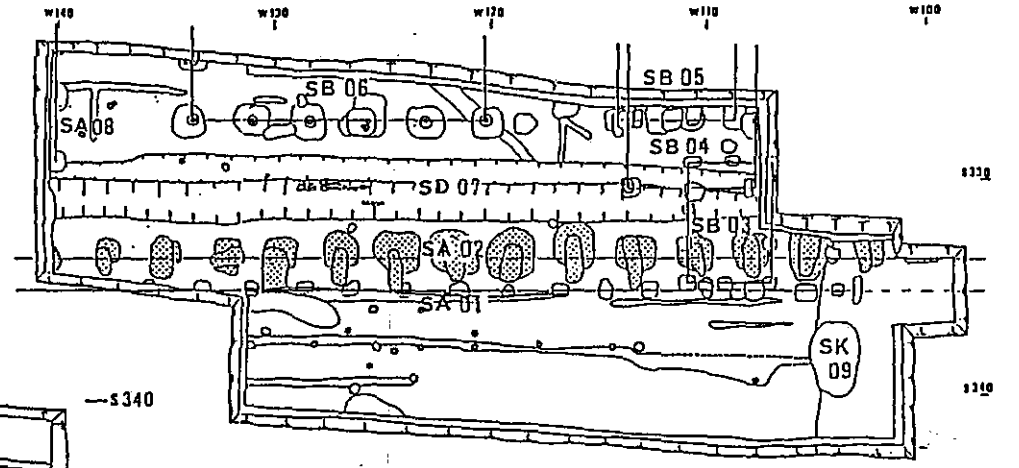
宮造営前の遺構分布



推定第一次朝堂院地区南東部遺構概略図



171次調査西区



第171次発掘遺構図